

# 子宮頸がんワクチン・副反応

## ——健康被害を訴え集団訴訟——

子宮頸がんワクチン接種後の副反応=健康被害を訴える女性 63 人が、東京・大阪・名古屋・福岡 4 地裁に国と製薬会社を相手取って損害賠償を求める集団訴訟 (7/27)。原告の一人園田さんから、そして薬害オンブズパーソン会議の隈本邦彦さんのお話を聞く機会がありました。(7/30 白井駅前センター)

園田さんはお母さんと一緒に現状を語ってくれました。中学 3 年 14 歳の時 (2011 年 8 月) 子宮頸がんワクチン『サーバリックス』を 3 回接種。不正出血や頭痛があっても原因分からず。高 1 になってから症状がひどくなり 19 歳の今でもめまい・倦怠感・睡眠障害・視力低下・握力低下・生理期間中のひどい痛み・車イスでの移動です。

ワクチン接種後症状が出て学校に行けなかつたりすると、症状への無理解から先生に「しょうがない子！何で治らないわけ？」と理不尽な扱いを受けたとのこと。病院などの医療機関では 11 か所も回ったがほとんど理解なく「そんなことはあり得ない。これは演技だ。何も診るところはない」と言われたりもしたとのこと。やっと子宮頸がんワクチンの副反応と診断されたクリニックで治療方法を探してもらっている状況。「一日も早く治療方法を見つけ出してもらって普通の生活をしたいです」との言葉が重く響きます。

薬害オンブズパーソン会議の隈本先生は、これまでの薬害被害状況と今回の HPV (ヒトパピローマウイルス) ワクチン副作用についての問題点を示してくれました。

MMR ワクチンによる“無菌性脳髄炎”の副作用のときは実際に症状が起こっていても、副作用の“自発的報告制度”のもとではなかなか気がつかないという問題があった

子宮頸がんの原因となる HPV の“初感染”を防止する為のワクチンは、HPV に似た VLP (ウイルスに似た粒子) を遺伝子組換えで作り、その中に自然免疫システムをわざと乱してやる”アジュバンド “を入れて作ったもの。初感染を防ぐために常に抗体を造り続けるのでワクチンとしてのハードルはめちゃくちゃ高いとのこと。

2009 年から接種が始められ 340 万人以上の女性が接種。疼痛・けいれん・付随意運動・記憶障害・めまい・倦怠など重篤な症状が副反応として報告されました。2013 年 3/25 「全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会」ができ、副反応が社会的に認識され始めました。これまで副反応の報告は 2900 件、そのうち重症は 1600 件とのこと (医療機関と製薬会社からの報告)。2013 年 4 月に「定期接種」となり各自治体は積極的に勧奨する責務を。しかし 75 日後の 6 月に「積極的にお勧めしていません」と厚生労働省は言わざるを得なくなりました。

それでも厚労省はワクチン接種と副反応との因果関係を認めません。産婦人科学会にいたっては「因果関係を示す科学的・疫学的な根拠は得ていません」と言いワクチン接種を推進している状態を隈本先生は厳しく批判しました。

最後に「HPV に感染した人の中の 0.15% からがんが発症。しかも感染からすぐに異形～がん化ではないことから副反応のひどいワクチンでなく子宮頸がん検診の受診率を向上させる方が効果的」と指摘。女性看護師や女性医師による検診をすることで子宮頸がん検診の受診率をせめて世界レベルまでに上げることが必要だと訴えました。

## 子宮頸がんワクチンの現

一途に薬害の経緯を調べてみる

隈本邦彦さん